

## 研究の経過と概要

### 1 研究テーマ

思考力・判断力・表現力を育む国語科の指導～言語活動の充実を通して～

### 2 研究の経過と概要

東山梨地区国語科教育研究会では、生徒の実態を踏まえて平成23年度より上記のようなテーマで研究を行ってきた。コミュニケーションツールの変化や人間関係の希薄化、情報があふれている現代社会において、生徒にとってより良い人間関係を構築していくための表現力や、自分で考え判断し必要な情報を取捨選択していく力、他者と交流して新しい考えを作り上げる力が、今まで以上に重要なものとなってくる。国語科の果たす役割は益々大きなものとなっていくだろう。

本部会では、小学校・中学校の二部会に分かれての研究体制をとっている。それぞれの部会ごとの研究に加えて、夏季は小学校の授業を、冬季は中学校の授業を参観し合うことで、子どもたちの発達段階に応じた指導方法を学び合っている。小中の連携を今後も深めていきたい。

### 3 今年度までの授業実践の経過

年度	授業実践の内容
28年度	・「言葉」について二つの文章を読み比べることを通して、自分の考えを深めよう 大岡信氏と池田晶子氏の「言葉の力」を読み、3～4人グループの話し合い活動を通して、筆者それぞれの「言葉についての考え」をつかむ。池田氏の「言葉とは自分そのものだ」という考えについて、自分自身の具体的なできごとに置き換え、自分にとって言葉とは何かという意見をもたせることにつなげていった。個人から3～4人の小グループ、そして全体へと段階的に意見交流を行わせることで考えを深めながら、言葉について自分の考えを持つ授業を行った。
29年度	・「主張と根拠のつながりが明確な文章を書こう」 4つの観点をもとに、自分の主張と根拠のつながりが明確になっている小作文を書き、3～4人の小グループでお互いに小作文の添削をした。4つの観点を提示することで、作文が苦手な生徒もわかりやすく書くためのヒントとなり、仲間の小作文を添削するときのポイントとしても効果的であった。自分以外の小作文を添削することで、自分の小作文の課題に気づくことにつながり、書くことの力を伸ばすために有効であった。
30年度	・「兼好法師のものの見方を捉えよう」 徒然草第十一段『神無月のころ』の後半部分、「かくてもあられけるよ、とあはれに見るほどにかなたの庭に大きな柑子の木の、枝もたわわになりたるがまはりをきびしく囲ひたりしこそ、少しことさめて、（ ）」を読み、（ ）に入る兼好法師の感想を考えさせた。なぜ、「囲い」ではなく「木」と表現しているのかを中心に、3～4人の小グループで話し合いをし、筆者のものの見方や捉え方について考える授業を行った。(本日提案)

#### 4 今年度の研究について

今年度は、小学校・中学校それぞれ研究をすすめてきた。研究授業については合同で行い、お互いの授業を参観し合っ、学び合っている。8月には、小学校部会の授業を参観し、1年生のスピーチ活動についての研究を行った。中学校部会では1年生の読むことについての授業を2月に公開する予定である。

#### 5 本年度研究部員

部長 今村 祐樹（山梨北中）

副部長 田辺 秀樹（勝沼中）

部員 横森 梨歌・佐藤 彩奈（山梨南中）

厚芝 瑞穂（山梨北中）

小野 渚（笛川中）

佐々木 梢・川崎 真理子・阿部 孝代・倉田 香月（塩山中）

武井 善史（勝沼中）

数野 透（塩山北中）

小林 史奈（大和中）

指導助言 倉田憲一教頭先生（山梨南中）

依田久幸教頭先生（塩山中）

#### 本文

##### 【概要】

本実践は、徒然草第十一段『神無月のころ』を読み、筆者の気持ちを想像することで古人の生き方やものの見方・考え方に思いを巡らす実践である。その際に、小グループを活用し意見の交流をすることで、生徒一人ひとりの感じ方を深めていった。

### 1. 単元名・目指す言語能力

兼好法師のものの見方を捉えよう

～筆者の表現の仕方に着目して読み、作品に表れたものの見方や考え方を読み取る力～

【C-オ】

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」イ

### 2. 教材名

仁和寺にある法師―「徒然草」から (光村図書出版2年)

神無月のころ (徒然草 第十一段)

### 3. 評価規準

国語への意欲・関心・態度	読む能力	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
①古典特有の表現やリズムに注意して朗読しようとしている。	①登場人物の言動の意味などについて考え、内容を理解しようとしている。【C-イ】	①歴史的仮名遣いや特徴的な表現に注意し、言葉の響きなどを楽しみながら読んでいる。【ア】
②登場人物の思いを想像し、作品に表れたものの見方や考え方を理解しようとしている。	②文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験を結び付け、自分の考えを広げようとしている。【C-オ】	②語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知ろうとしている。【イ】

### 4. 単元について

本教材は、非常に読みやすくわかりやすい内容であり、古典の随筆に親しむにふさわしいものといえる。音読を重視し、語注をもとに話の内容を理解することで音読と内容理解がつながっていく感覚をもたせたい。

筆者の表現の仕方に焦点を当てることで、苦手意識をもちやすい古文を身近に感じ、分析的に読み取ることさらに古典への興味を促し、読みを深めていくきっかけとしたい。また、話し合いや交流を取り入れた授業を通して、登場人物の言動の意味や筆者のものの見方や考え方を多様な視点で考えさせたい。

### 5. 言語活動の充実について

(1) 言語活動を通して既習の知識・技能を活用させ、思考力・判断力・表現力等を育むための手立て

本単元の学習の最後に言語活動例C (2) イ「物語を読み、内容や表現の仕方について感想を交流すること。」を具体化し、筆者のものの見方を文章にまとめその交流を設定する。この活動は、登場人物や筆者の言動の意味などを考え、隠された部分を考えることで、筆者の考えをわかりや

すく表現することが必要である。また、この活動は本文中の描写の効果や登場人物の言動の意味を考えることや、それに対する自分の考えをまとめることにもつながる。生徒はこれまでに、中学1年の「星の花が降る頃に」では登場人物の行動の描写に着目して気持ちの変化を捉える学習を、2年の「アイスプラネット」では心情曲線を描くことで登場人物の言動や心情を表わす表現に注意して読む学習を行った。このような既習の力を活用して、古典教材でも現代語訳を参考にしながら読みを深めさせたい。また、3～4人の小グループでの意見交換などの活動を通して、自分では気づかなかった他者の考えに触れ、登場人物の言動の意味や作品全体に表れたものの見方や考え方を、多様な視点で考えさせたい。

(2) 今回の指導計画において意識させたい「5つの言語意識」

- 目的意識 兼好法師のものの見方を知るために
- 相手意識 学級の仲間に
- 場面状況意識 「仁和寺にある法師」の登場人物の言動や描写から、人物像を捉える場面兼好法師の考え方やものの捉え方について意見を交流する場面
- 方法意識 内容の理解に役立てるために、語注をもとに現代語訳やあらすじを考え、登場人物や筆者の言動の意味を読み取り、隠された言葉を補って筆者の考えを読み取る。
- 評価意識 作品に表れたものの見方や考え方、登場人物の思いを想像し、筆者の考えを文章にまとめ、交流することで内容の理解を深めている。

## 6. 生徒の実態

2年4組は、男子15名、女子15名の計30名のクラスである。授業に対して真面目に取り組む生徒も多く、国語に対してもほとんどの生徒が真剣に取り組んでいる。読むことについては、語彙が少なく、文脈に沿った言葉の意味を推測することも難しいので、誤った読み取りをしてしまう。また、題材について身近な体験や知識と関連させて考えることも苦手であり、登場人物の言動や描写から人物の心情を読み取り、それに対して自分の考えをもち表現することが難しい生徒が多い。生徒はこれまでに、中学1年の「星の花が降るころに」では登場人物の行動の描写に着目して気持ちの変化を捉える学習を、2年の「アイスプラネット」では心情曲線を描くことで登場人物の言動や心情を表わす表現に注意して読む学習を行った。このような既習の力を活用して、古典教材でも語注を参考にしながら読みを深めさせたい。

学力把握調査においては、「話すこと聞くこと」の領域での正答率が低く、特に「相手意識や目的意識を明確にして必要な情報を整理できる」の項目が低かった。

### (1) 国語授業に関する意識調査

	まったく	あまり	だいたい	とても いつも
1. 国語の授業に真剣に取り組んでいますか？	1	2	15	10
2. 教科書・ノートなどの忘れ物がないですか？	15	5	5	3
3. 先生や友達の話をしっかり聞いていますか？	1	0	20	7
4. 先生の質問に対して自分の考えを持つようにしていますか？	1	7	13	7
5. 授業中、進んで発言したり、質問したりしていますか？	9	6	8	5
6. 班での話し合い活動にしっかり取り組んでいますか？	0	5	14	9
7. 授業内容は、よく分かっていますか？	0	4	17	7
8. 提出物はしっかり出していますか。	1	3	10	14

### (2) 学習に関する意識調査

	まったく	あまり	だいたい	とても いつも
1. あなたはグループで話し合う活動が好きですか？	0	7	9	12
2. あなたは自分の考えや意見を発表することが好きですか？	5	12	10	1
3. あなたは友達の話や意見を聞くことが好きですか？	0	8	14	6
4. あなたは自分の考えを文書で表現することが好きですか？	3	16	8	1
5. あなたはグループで話し合う活動が得意ですか？	1	9	15	3
6. あなたは自分の考えや意見を発表することが得意ですか？	4	15	4	2
7. あなたは友達の話や意見を聞くことが得意ですか？	0	9	16	3
8. あなたは自分の考えを文章で表現することが得意ですか？	3	17	7	1

(2)(3)の調査より、先生の話や友達の見解を聞き、自分の考えを持つことはできても、それを発表することを苦手とする生徒が多いことがわかる。しかし、グループでの話し合い活動を好き、得意と考える生徒は多いため、小グループでの話し合い活動を取り入れ、自分の考えや意見を表現する場を多く設定することが苦手意識をなくしていくことが有効な手段であるといえる。

#### ※日常の取り組み

- 書くことへの苦手意識をなくすために、1年時より書くことを月に1～2回行っている。
- 役割を設定した小グループ(3～4人)での話し合い活動を取り入れてきた。
- 様々な文章の暗唱や音読テストを1年次より行っている。

## 7. 指導と評価の計画（全6時間）

次	時	主な学習内容	評価規準	言語活動に関する指導上の留意点
一	1	○「徒然草」について基礎知識をもつ。（プリント学習） ○冒頭部分を繰り返し朗読し、暗唱する。	【意欲・関心・態度】 要点をまとめ、積極的に暗唱している。 【伝国】 仮名遣いや特徴的な表現に注意して朗読している。	・目標とすることを伝え、学習の見通しをもたせる。
二	2	○古典特有の表現に注意しながら、『仁和寺にある法師』の原文を繰り返し音読し、文体に慣れ親しむ。 ○現代語訳や脚注を参考に『仁和寺にある法師』のあらすじを想像する。	【意欲・関心・態度】 積極的に朗読し、現代文をもとにあらすじを捉えようとしている。 【読む】 脚注や語句に着目して全体のあらすじを捉えている。	
	3	○あらすじを確認する。 ○法師の言動についてグループで話し合い、人物像を捉える。 ○筆者が伝えなかった事を考える。	【意欲・関心・態度】 現代語訳や脚注を参考に内容を捉え、積極的に話し合いに参加している。 【読む】 法師の言動から心情を読み取り、場面の状況や登場人物の立場を理解している。	・「仁和寺にある法師」から読み取れる、法師の人物像をまとめるワークシートを用意する。
三	4	○『神無月のころ』（第十一段）を取り上げ、現代語訳や脚注を参考に内容を理解する。	【意欲・関心・態度】 原文や現代語訳を積極的に読んでいる。 【読む】 脚注や語句に着目して全体のあらすじを捉えている。	・必要な章段の原文を全員分用意する。
	5	○『神無月のころ』（第十一段）の前半部分から、庵の様子や庵の主人の暮らしを想像する。	【意欲・関心・態度】 現代語訳や脚注を参考に内容を捉え、積極的に話し合いに参加している。 【読む】 原文や現代語訳から場面の状況を理解し、庵の暮らしについて想像している。	・庵の様子や庵の主人の暮らしについて、話し合うためのワークシートを用意する。
	6 本時	○『神無月のころ』（第十一段）の後半部分を読み、作者のものの捉え方、「徒然草」の特徴について理解し考えを広める。	【意欲・関心・態度】 現代語訳や脚注を参考に内容を捉え、積極的に話し合いに参加している。 【読む】 文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験を結び付け、自分の考えを広げようとしている。 【伝国】 各章段に表れたものの見方や考え方に触れ、筆者の思いを想像している。	・「この木なからまし かばと覚えしか」の部分想像し、筆者のものの見方について話し合うためのワークシートを用意する。

## 8. 本時の学習

- (1) 日時 平成31年2月 日（水）5校時
- (2) 場所 塩山中学校 2年4組教室
- (3) 題材 「徒然草」
- (4) 目標 「神無月のころ」の原文や脚注参考に内容を読み取り、情景描写や筆者の言動から、筆者のものの見方の特徴を捉え、自分の考えをもつことができる。（読C-オ）
- (5) 評価規準

評価規準（B）	十分満足できる（A）	努力を要する（C）
「神無月のころ」の原文や脚注参考に内容を読み取り、その描写や筆者の言動から、筆者のものの見方の特徴を捉えている。	「神無月のころ」の原文や脚注を参考に内容を読み取り、その描写や筆者の言動から、筆者のものの見方の特徴を捉え、自分の考えをもっている。	「神無月のころ」の原文や脚注を参考に内容を読み取ろうとしている。

(6) 展開

時	教師の活動	予想される生徒の活動	形態	評価の視点
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「徒然草」の冒頭部分を全員で暗唱させる。</li> <li>○本時の目標を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・暗唱できる生徒は暗唱する。</li> <li>・暗唱できない生徒は教科書を見ながら朗読する。</li> </ul>	全	
展開 40分	<p><b>【めあて】</b> 兼好法師のものの見方を読み取ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○語注をもとに早段の内容を確認させる。</li> <li>○庵の主人の生活を確認させる。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者の目に写ったものを確認させ、主の生活の様子を掴ませる。</li> </ul> </li> <li>○かくてもあられけるよ、とあはれに見るほどにかなたの庭に大きな柑子の木の、枝もたわわになりたるがまはりをきびしく囲ひたりしこそ、少しことさめて、( )の( )に入る兼好法師の感想を考えさせる。</li> <li>・代表者に発表させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・苔の細道いほり木の葉 かけひあか棚 折り散らかした菊紅葉 ＝寂しい生活（人） 孤独な生活（人） 静かな生活（人） 風流な生活（人） ＝（普通とは違う生活）</li> </ul> <p><b>【言語活動①】</b> ●個人・ペアで読み取ったものをもとに、グループで話し合う。</p> <p>〈予想される生徒の反応〉</p>	個 ペア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々で考えたものをもとに、互いの考えを生かした話し合いができているか。</li> <li>・話し合いによって、登場人物や章段の内容理解が深められているか。</li> </ul>
	<p><b>【キーワード】</b> この木なからましかばと覚えしか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○キーワードの部分を確認させ、なぜ「囲い」ではなく「木」なのか、理由を考えさせる。</li> <li>・代表者に発表させる。</li> <li>○「あはれ」や「ことさめて」など原文の言葉に注目させ、筆者の思いについて説明する。</li> <li>・筆者の考え方に対して、自分の生活や経験をもとに意見や感想を書かせる。</li> </ul>	<p>〈予想される生徒の反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木があるから、みかんを取られないくないという気持ちが起きるから。</li> <li>・木がなければ、みかんがなることもなく、みかんを取られないようにする気持ちは起きるはずもないから。</li> </ul>	個	

まとめ 5分	○本時の学習の振り返りを、デザインシートに記入させる。	<b>【言語活動②】</b> ●話し合いを通し、理解が深まった点や本時の感想をデザインシートに記入する。	個	・本時を振り返り、新しく発見したことや感想を書くことができたか。
-----------	-----------------------------	---	---	----------------------------------

## 9 成果と課題

### 〈成果〉

- ・空欄を想像させることで、様々な意見をだすことができた。
- ・古典に対して苦手意識があり取り組みが難しい生徒も、話し合い活動をすることで友達の意見をもとに考えることができていた。

### 〈課題〉

- ・「あはれ」や「ことさめて」などの語句の理解を十分にさせることが必要だった。
- ・語彙力が少ない生徒も多いので、「あはれ」などの生徒たちの感覚にはない言葉を理解させるには視覚的な説明も必要であった。
- ・生徒の発言は教師に対して伝える形ではなく、生徒同士で交流するという意識をもたせるべきであり、声の大きさ・体の向きなどを変えていかなくてはならない。